

子どもたちと社会とのつながりを広げ、深める取組の推進

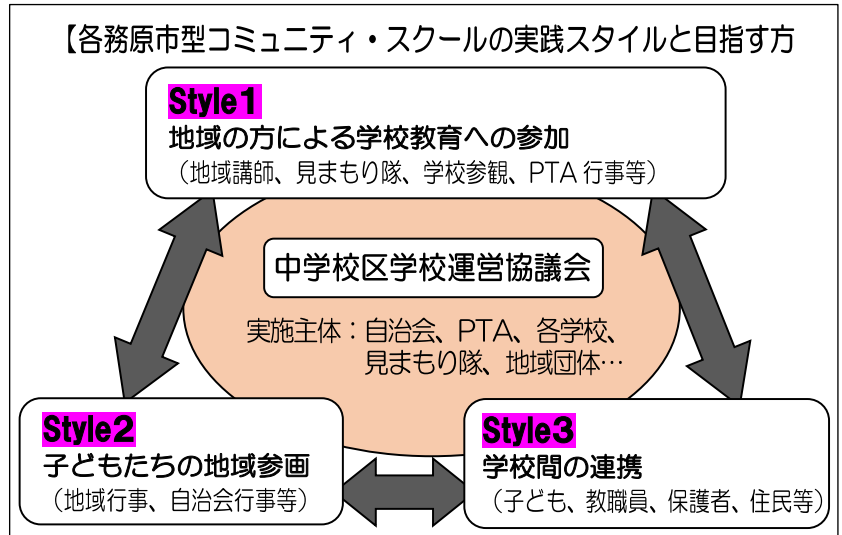
～各務原市型コミュニティ・スクールと児童生徒情操教育の推進を通して～

各務原市教育委員会 学校教育課

■各務原市型コミュニティ・スクールの推進について

各務原市では、9年間を通して、地域住民の一人として成長していく「地域の子どもたち」に願う姿を地域ぐるみで考え、実践することで、誇り・やさしさ・活力があり、郷土を愛する児童生徒を育成していくことを目指し、中学校区ごとに学校運営協議会を設置している。平成30年度から設置を進め、今年度、全中学校区の設置が完了した。

各中学校区学校運営協議会では、3つのスタイルに沿った具体的な取組を進めている。



Style1 地域の方による学校教育への参加



予定よりも早く作業が進み、完成した時には、地域の先生方も一緒に喜んでくださり、本当に充実した時間でした。

地域の方の知識や技能を生かした交流が、技能の向上や共に学ぶ喜びの実感につながっている。

Style2 子どもたちの地域参画



お住まいの方から「きれいな家で新年を迎えられてうれしいです。」などのありがたい感想をいただきました。

地域に貢献する体験を通して、自分への自信と地域への愛着を深めることにつながっている。

Style3 学校間の連携



3校が一緒になってこの活動を行いました。この活動には、あいさつあふれる中校区にしようという願いが込められています。

中学校区での連携した取組を通して、安心した小中接続や地域全体での願いの共有が図られている。

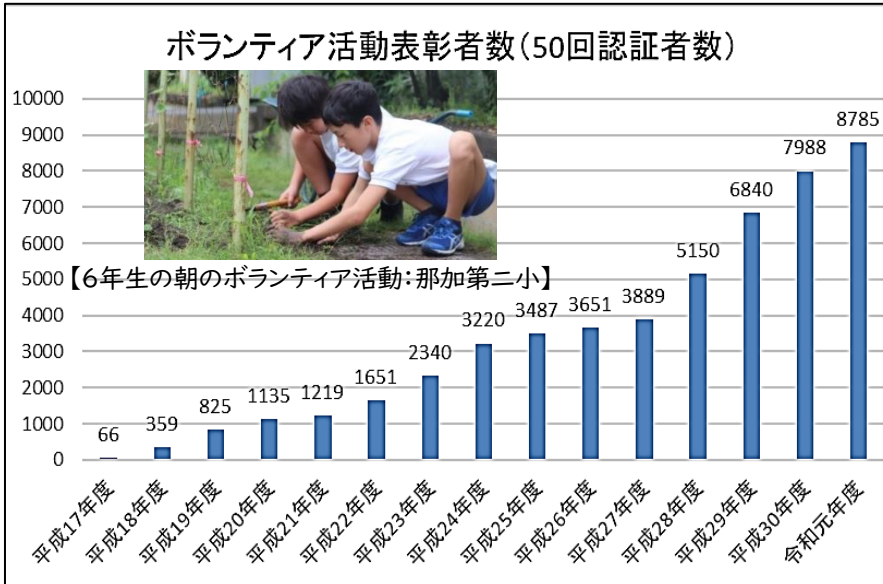
■児童生徒情操教育の推進（ボランティア手帳の活用及びボランティア表彰）について

人を育むことが、まちや地域の成長につながるという信念から、児童生徒情操教育推進事業を位置付け、自分に誇りを持ち、社会に貢献しようとする児童生徒の育成を目指す教育を推進している。

市内全小中学校の児童生徒に「ボランティア手帳」を配付し、各学校において活用している。公私を問わず「他の人のため・地域のため」に自主的に行った活動であれば、ボランティア活動として認証し、ボランティア活動への意識・意欲の向上を図っている。



認証回数が50回を超えた児童生徒には、校長が手帳の「ボランティア活動歴50回認証状」のページに校長印を押し、努力を認め、2冊目を配付する。年度の終わりには、各校で表彰式を開催し、ボランティア活動歴50回認証の表彰状を授与することで、子どもたちは、互いのがんばりを認め合いながら、次の目標達成への意欲を高めている。



【学校の取組例】SDGs「蘇一を向上させるための17の目標」

蘇原第一小学校では、SDGsとつなげ、ボランティア手帳を活用した取組を行っています。蘇一小オリジナルのSDGs児童向け版「蘇一を向上させるための17の目標」を作り、自分のボランティアと関わりのあるマークを手帳に貼っています。こうした取組を通して、自らの活躍の場を広げ、学校や地域への願いをもつ子どもたちが育ってきています。

僕が遊びに行くときに、道路にペットボトルや空き缶が落ちていたら、拾うようにしています。それを自転車のかごに入れて、ごみ箱に入れます。拾うとスッキリします。いつも落ちているので、捨てる人がいなくなるとよいと思います。(6年生児童)

蘇原第一小学校



<最後に>

今年度から全ての中学校区に学校運営協議会が設置され、これまでの各学校や地域での取組を生かしながら、地域とともにある学校づくりが進められている。新型コロナウイルス感染症の流行により、計画の変更を余儀なくされる一方で、こうした状況を踏まえて必要な支援活動を計画、実施している例も見られる。地域と学校とのつながりを生かした様々な取組が、子どもたちと地域とのつながりを広げ、深めている。

児童生徒情操教育推進事業では、ボランティア手帳を1つのツールとして、各学校において工夫して活用することで、ボランティア活動の実践へとつなげている。子どもたちは、ボランティア活動を通して様々な人と関わることで、活躍の場とつながりを広げながら、自分への自信や周囲への優しさを育てている。

コミュニティ・スクールの取組に参加したことをボランティア手帳に記載するなど、これらの事業は相互に関連しながら、子どもたちと社会とのつながりを広げ、深めるものとなっている。今後も継続して推進していく。